

環境影響評価審査会総会議事録

- 1 日時：平成 17 年 12 月 26 日（月）10:00～12:30
- 2 場所：神戸市教育会館 404 会議室
- 3 議題
 - (1) 諮問
 - (2) 大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド～駒ヶ林南）（仮称）環境影響評価方法書について
- 4 出席委員：藤井会長、山口副会長、朝日委員、遠藤委員、小谷委員、川井委員、北村委員、田中眞吾委員、田中みさ子委員、辻委員、中辻委員、西村委員、別府委員、山下委員
- 5 事務局：原田健康生活部環境局長、長谷川健康生活部参事（環境技術担当）
環境影響評価室 勝野室長、鷲見課長補佐外室員 3 名
- 6 関係部局：自然環境保全課、大気課、水質課
- 7 環境影響評価実施者等：県都市計画課、国土交通省近畿地方整備局、同阪神国道事務所
- 8 傍聴者：0 名
- 9 配布資料：
会議次第
出席者名簿
（資料 1）環境影響評価方法書の審査について（諮問）
（資料 2）環境影響評価法手続きの流れ（大阪湾岸道路西伸部）
（資料 3）大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド～駒ヶ林南）（仮称）環境影響評価方法書
（資料 4）大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド～駒ヶ林南）（仮称）環境影響評価方法書（概要版）
（資料 5）大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド～駒ヶ林南）パンフレット
環境影響評価審査会大阪湾岸道路部会委員名簿（案）
- 10 議事概要
（藤井会長に諮問（資料 1））

（事務局より、資料 2 にて手続き及び大阪湾岸道路部会の設置等を説明）

（環境影響評価実施者より、資料 3～5 にて説明）
（委員）方法書の p11 と p15 で、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄及び一酸化炭素が「横ばいで推移している」と表記されているが、「ゆるやかに減少している」と見ら

れるので、表記を検討してほしい。また、海の生物の現況に関して、底生動物が底泥部分の生物相のみである。沿岸部に建設し、また周辺で傾斜護岸の設置や付着生物の改善が行われていることから、護岸や消波ブロックにつく付着生物の現況調査をしてほしい。工事に伴う水質の悪化やSS等による影響は付着生物に現れる。

(環境影響評価実施者) 環境影響評価としては対応しないが、事業実施に向けて既存情報の収集整理等を行う。

(委員) 資料5によるとアンケートやヒヤリングを行ったとある。どのような内容で、どのような意見があったのか。

(環境影響評価実施者) 意見については、今回の道路に対する期待に関しては、速度、乗継等利便性の向上、既存幹線道路の道路交通問題の改善及び地域の活力の向上があった。配慮事項に関しては、防災対策、交通流の適正や料金等マネジメントの実施があった。さらに、工事中、供用後の沿道環境の保全、整備費用等であった。

(委員) 今回の計画は、国道43号線や都市交通流の問題解決が目的だと思うが、方法書にある神戸市内の環境の現況が、道路ができることによって改善されると予測の結果では触れるのか。

(環境影響評価実施者) 神戸市全体の環境がどうなるのかとのことであるが、今回の環境影響評価は、この路線ができることによる周辺環境への影響を予測・評価することが目的となっている。今回の路線は、環境改善や交通渋滞の改善にするものであるが、地域全体の話は、道路行政や土地行政の中で議論される。

(委員) 方法書は、現時点のデータをまとめているが、神戸空港の開港を考えると、方法書的前提が変わるおそれはないのか。大きな変化が生じるので、方法書の検討の中で、留意がいるのではないだろうか。空港整備の時点で検討されていると思うが、大規模工作物による飛行経路への影響や臨海部の土地利用の変化を方法書では考慮するべきではないか。

(環境影響評価実施者) 神戸空港の影響や配慮については、現在検討中である。

(委員) 図書でのデータの選択はどのように決めているのか。

(環境影響評価実施者) 方法書では、項目・手法の選定を行うが、p4の図面の範囲内で、既存の文献等から入手可能なものから、調査地点や結果を整理している。

(委員) ルート選定について、駒ヶ林南から名谷ジャンクションはどうなるのか。

(環境影響評価実施者) その部分は、環境影響評価も実施され、平成6年9月に都市計画決定がされている。今回で都市計画上全線決定される。

(大阪湾岸道路部会の設置が了承された)

以上